

H28 かほく市立大海小学校 学校評価結果最終版

★市の重点項目S:児童 P:保護者 T:教職員

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	達成度判断基準 (A+Bの割合で判定)	判定基準	前期				後期				達成度判断	改善策	学校関係者評価者による意見	
						児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価				
確かな学力の育成と小中連携の充実	★国語科・算数科の基礎学力の向上を図る	学習指導部	漢字テストで8割以上できる 計算テストで8割以上できる	漢字・計算の評価プリントで80%以上できる児童が80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	漢字テスト 95% 計算テスト 95%				漢字テスト 94% 計算テスト 89%				A	・学力が定着していない児童には、放課後学習や休み時間の指導で個別指導を継続する。(管理職・級外・担任外の教師など全職員で協力して行う) ・中・上位の児童には、朝学習や補充問題として「A問題・B問題トレーニング問題」を活用した発展的学習の機会をとる。 ・計画的な家庭学習については、低学年の保護者評価が低かったことを受け、低学年対象の「家庭学習の進め方」の学級指導を実施する。また、「学習部便り」をもとに、計画的な家庭学習とはどんなことを保護者と児童で話し合いめあてを共有する取組を全学年で行い、「計画的な家庭学習の定着」を進める。 ・教科での図書利用を推進したり必読書を設定したりするなど児童が本に触れる機会を設定することで、読書量を増やしていく。	・バスの下校時刻など調整が大変かもしれないが、放課後学習や休み時間の個別指導を継続してほしい。 ・中・上位の児童にも手厚く役立つ学習を行い、さらなる意欲に高めてほしい。 ・計画的な家庭学習については、保護者のAB評価の基準を明確にする必要がある。同じ基準をもつことが、子どもと親の評価の差を埋めていくと思う。 ・3月に行われる教育後援会表彰式での読書賞をめざして、読書を推進してほしい。 ・学校評価において、国語・算数等4教科・英語・生活・総合・体育は評価しているが、音楽・図工の芸術系の評価はない。芸術系の地域の人材も多いと思われるので、活用していけばよいと思う。	
	★家庭学習の習慣づけを図る (10分×学年)		学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる	10分×学年の時間をクリアした割合が100% S/P「自分で計画を立てている」が80%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	がんばりカード 97%				がんばりカード 100%				A			
	★アクティブラーニングを取り入れる等、一人一人が分かる授業となるよう工夫と改善に努める		児童の弱点克服のため、研究の重点目標をもとに、授業改善を図っている	教職員のアンケートで90%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満				100%				100%	A			
	★小中連携の推進を図る		校区内小中連携を意識した取組を学期に1回以上行う	単元終了後のテストで平均正答率が8割以上できる児童の割合が80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	89%				87%				B			
	英語活動の充実を図る		英語活動に興味関心をもち、楽しい授業になるように創意・工夫をしている	児童・保護者アンケート「学習内容が分かっている」で80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	95%	国語 86% 算数 80%			93%	国語 84% 算数 80%						B
	読書に親しむ習慣化を図る		全校朝読書を設定し、学年に応じた図書に親しませ、読書目標（各学年の設定）の達成を50%以上にする	年間 次の数値以上 低は、200冊 中は、8000ページ 高は、10000ページ	A80%以上 B:50%以上80%未満 C:30%以上50%未満 D:30%未満	83%				44%							C
学校組織力の強化	学力向上に向けロードマップをもとに組織的に取り組む	教務部・学校コーディネーター	一人一人が参画意識をもって学力向上に向けて自分の役割を遂行している	教職員アンケートの実施で90%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満				100%				100%	A	・ロードマップをもとに各リーダーが横の連携を意識して取り組む。 ・学校CNを活用し、地域の素材や人材をさらに生かして、体験を充実できる教育活動にしていく。 ・今後も、継続してHPやお便り等で子ども達の様子を地域に発信していく。	・公民館に飾りきれないほどの賞状が届き、子ども達の活躍をうれしく感じている。子ども達もほめられることで自己肯定感が高まっていくのだと思う。 ・コミスクと学校運営協議会との関連が強い。使命感を感じている。 ・学校CNの活用で地域との連携が深まっている。今後もさらに人材活用し、地域を巻き込んだ教育活動を続けてほしい。	
	地域素材をいかした学習に積極的に取り組む		総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材をいかした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満				100%				100%	A			
			総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる	児童アンケートの実施で80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	96%				98%				A			
	家庭・地域との協働による学校運営協議会の充実を図る		家庭や地域との連携に際し、積極的に学校CNや学校運営協議会を活用している	教職員・委員アンケートの実施で80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満			95%	100%			100%	100%	A			
いじめ・不登校や問題行動の防止と特別支援教育・心の教育の充実	★あいさつを通して他者との関わりを持たせる	生徒指導部	家庭や地域であいさつする習慣が身についている	三者のアンケートの評価の割合が80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	97%	97%	81%		95%	96%	88%		A	・学校内でできているあいさつが、家庭でのあいさつにつながるように指導したり、家庭に啓発したりしていく。 ・月ごとの行事予定表やホームページ、学校便り等を活用し、今後もいじめに関する取組や現状を伝えていく。 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と児童がしっかりと継続理解できるよう、年間通じて指導を行う。 ・QU調査を生かした学級経営を行い、教職員間で共通理解した児童への対応を行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・特別な支援を要する児童に対しては、特別支援教育コーディネーターを中心にチームで危機感をもって対応していく。 ・今後も保護者と連携を図ったり、生活目標と関連させた取組を行うことで、児童の自己肯定感を高める。(2月「友達のよさを見つけよう」の生活目標で、児童・教師・保護者でよさを見つけ伝える取組を行い、自己肯定感・自尊感情を養う。) ・3学期は、毎週木曜日をちょこボラの日と設定し、進んで行動できるようにしていく。	・4年間防犯パトロール隊を行っているが、以前に比べて大きな声でありさつをしてくれるようになった。 ・昔と違って知らない人にはあいさつをしない風潮があるからか、登校時見守っていたときにはあいさつをよくしてくれていたが、しばらく間をおくと知らない人になってしまい、あいさつがなくなり、さみしく感じている。 ・大海の子は、どの子どももよくあいさつをしてくれる。運転中の私を見つけて、おれをしてくれる子もいる。郊外のお店で出会ったときに声をかけてくれる子もいて、本当にうれしくなる。 ・学校に来るたびに、自然なあいさつをしてくれて、子ども達から元気をもらっている。 ・不審者対応の面からも、地域の人を知りふれあう機会を、今後この学校運営協議会でつないでいくことも大事な役目である。	
			学校内でお客さんに出会ったときにあいさつができる	児童・教職員アンケートの結果が100%	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	94%			100%	97%			100%	A			
	★いじめ・不登校や問題行動の未然防止に努める		問題行動を起こす前に、積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭との連携を図り、問題解決できるようにしている	教職員アンケートの結果が100% S：「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」が100% P：「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	100%				100%				A			
	★特別支援教育の推進に努める		特別支援コーディネーター及び体制を活用しながら、一人一人が自己有用感を感じ、認め合える学級づくりに努めている	教職員アンケートの結果が90%以上 S：「自分にはよいところがある」が80%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	85%				95%				A			
	家庭と連携し道徳教育の充実を図る		年間指導計画にそって道徳教育を行うとともに、道徳的な判断力・実践力を高めるようにする	T:道徳の授業を年1回以上公開し、道徳便りや学年便りで保護者に取組を啓発する P:「道徳の内容が伝わってくる」が80%以上	A:よく取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満			100%			100%			A			
	異学年活動を推進し、活力ある学校づくりをする		アンケートの結果が、児童が80%以上・教職員が90%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	97%				88%	98%			100%				A
			学級活動や学校行事などに楽しんでも企画したり参加したりしている	S：「毎日学校に行くのが楽しい」が100% P：「子どもは学校に行くのが楽しい」が90%以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	91%				93%							B
			進んで人の役に立つことをしようとしている	児童アンケートで80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	93%				93%							A
	生活習慣の定着と運動能力の向上		★家庭と連携し、生活習慣の定着を図る	保健安全部	身の回りの清潔に自分で気をつけ取り組んでいる	毎週水曜日の清潔検査で80%以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	100%				100%					
		食に関する指導計画をもとに、養護教諭等と連携して食育の授業や活動を推進している	S/P「朝食を毎日食べている」が90%以上		A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	96%	98%			100%	99%			A			
		「早寝・早起き・朝ご飯」を意識して生活できる	学校独自の「はっぴ〜貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日以上できたが80%以上		A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	朝食 96%	朝食 98%			朝食 100%	朝食 99%			A			
							早寝早起き 75%			早寝はっぴ〜貯金 52%	早寝早起き 74%			C			
★児童の体力・運動能力の向上を目指す		特別活動部	各学年で決められたスポチャレの内容や目標値に向かって取り組んでいる	学期毎にスポチャレ記録回数の更新を2回以上するが90%以上	A:3回以上 B:2回 C:1回 D:0回				100%				100%	A			
			やや苦手の短距離での走力をつける	短距離走の学校平均値の伸びを昨年度以上にすることが80%以上	A:数値が上がっている B:数値がほぼ同じである C:数値が下がっている	H27 + 0.097秒 H28 -0.525秒				H27 + 0.097秒 H28 -0.525秒				A			